巻　　頭　　言

聖泉大学 学長
看護学部 学部長
筒　井　裕　子

聖泉大学看護学部が発足し3年が経過，今春4年目を迎え，1期生を送り出す最終年度となりました．この間，教員は教育と研究，その成果が常に問われ，忙しい中，毎年，聖泉看護学研究学術誌への投稿人数も増え，如何に教員が研究への意識を高めてきているか，伺い知ることができます．

このことは，看護学部の学術誌編集委員会の委員長をはじめ，委員の皆様のご尽力によるところで大変感謝いたしております．

学部発足以来，研究成果を看護実践に生かして頂きたいと願い，学術誌はむろん，キャリアアップセンターを発足させ，基礎研究の研修から計画いたしました．そこでの成果も，いずれ，まとめられ学術誌に投稿されると期待しております．

近年，高齢・少子化と医療の進歩により，保健医療の現場では，多様化するニーズに応えるために専門性を駆使し，特に，住民・患者の傍にいる看護職がそのニーズを分析し，問題点を焦点化でき，それに対応できる能力が求められます．看護学はどのような健康状態にある人にも，その人らしく生活できることを支える実践的学問と言われています．

従って，看護職の担う領域は拡大しつつあり，この現状から，看護学の発展が大いに期待されるところです．

看護学を発展させるための研究は，人間の感性や行動を観察し，分析し，洞察力を磨いて質の高い研究を進めて頂きたいと考えます．

また，本学のキャリアアップセンターは，地域の看護職の方々と看護の質をより高めるために学習の場を設けております．

このセンターを活用し，聖泉大学の学術誌に当学部の教員と共同研究の成果の論文を掲載し，実践に生かして，看護がさらに質を高めることを願っております．

最近の医療の発展は幅広く，看護の質が問われています．特に，実践的研究は看護の質の向上には必要不可欠です．その意味でも，臨床・臨地での研究を重視していきたいと考えております．そのため当学部に大学院の開設を願い，学部終了と同時に実習施設の方々と共同研究に取り組みたく，共に考え，看護の質の発展を願いたいと大学院開設に挑んでいます．

大学院では仕事を持ちながら学んだ成果は，看護の対象者に生かされます．大学院で学びなおす機会を是非，多くの方々が挑戦し，研究の中身を高めていく，また，それぞれの看護職の方々がライフワークとして，ご自分を研鑽し，高めていくには良いチャンスではないでしょうか．

そして，「Seisen Journal of Nursing Studies」に教員と共同で投稿していただきたいと願っております．

当学部の学術雑誌がより高い質の研究へと発展しますよう願っております．今後とも，当学部の発展にご支援賜りますようお願い申し上げます．